

景況実感調査(2019年11月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 稼働日は20日となり対前月比1日減も、10月は台風の影響もありほぼ同じ。薄板三品の10月末在庫は430万トンとの発表だが、絶対量としてはまだ過多と思われる。とくにEGは余剰感があり輸入玉とのせめぎ合いと相まって安値も散見される。12月に入り、一年の総括としてはまったく期待外れの一年となった。台風、大雨と災害も多く、人手不足、トラック不足とコストは上がるが売値の改定は思うに任せない。翌3月には高炉メーカーの一つが消え(日新製鋼)、日本製鉄に吸収され、流通も含めた本来の意味でのリストラクチャリングの年となる。期待と不安の中での2020年となる。
- ② 鋼板、フォーミング製品共に販売量が落ちているが、とくにデッキ製品は12月から3月の受注物件が極端に少なく、収益悪化の最大の要因になっている。
- ③ 11月は前月比横這いと、依然として需要の盛り上がりには欠ける。三品在庫は一定の調整が進展したが、輸入材の入着が増加傾向にあるため、市況は依然として弱含みである。環境改善には実需に期待するしかない。
- ④ 11月から各メーカーの値上げが行われている。
- ⑤ 販価維持に努めているが、各社がどこまで我慢できるか。流通によっては値上げしている先もあるが、慎重にやっていきたい。シェアキープが最優先との攻防。

中板

- ① コイルセンターにとっては、店売り低迷により収益悪化をカバーし、下支えしてきた加工賃収入が8月以降落ち込んでおり、11月は更に減少していることから本格的な景気後退を感じる。薄板三品在庫は、一昨年7月を最後に400万トンを切ることはなく、10月には輸入材の入着が前月比大幅に増加している上に、関東圏では輸入材の滞船がまだ解消されていないことから、先行きの在庫過剰と市況下押しが懸念される。コイルセンターとしての自助努力にも限界があり、手詰まり状態で来年への不安に困惑するばかりである。

厚板

- ① 切板、母材共に需要は弱い。建設機械は下期に入り大幅に生産計画を下方修正したことに加えて、台風19号の影響によりパルプメーカーが被災し部品供給がストップ、10月中旬より生産停止に追い込まれた。12月に入り一部で供給が再開されたが、情報が錯綜しており楽観はできない。産業機械も海外の在庫調整が続いており、発注量は低位安定に留まっている。母材は橋梁、免振、建設機械、土木その他いずれの分野からも引合いが弱く、販売量は前年同月比では半減している。先行きについても明るい材料が見当たらないが、物件物を確実に取り込むことによって受注の確保を図りたい。

一般開金鋼

- ① ここに来て見積りや成約率に勢いがなくなり翳りがでてきた。ここ数年間満杯だった鉄骨加工のH、Mグレード工場も空きが出てきたと聞く。市況も激戦区で安いようだ。これから不需要期に向か中、去年とは違う憂鬱な年末である。

I-I 開金鋼

- ① 繁忙期入りの割には盛り上がり欠ける状況。2020年はオリンピック終了まで工事が少ないと予想しており、価格を下げずに踏ん張ることが大事。
- ② 11月の倉出しは微減。前年同月比もマイナス。稼働日は変わらず、日当たりもマイナス。季節的な需要は若干は感じられたが、期待した量ではない。加工品も引合い減。市況維持に努める。

異形棒鋼

- ① 物件向けの棒鋼出荷が回復したため売上は若干伸びたが、在庫販売は市況も数量も横這いで低調な商いが続いている。

平鋼

- ① 荷動きは一段と悪くなったように思う。とくに定尺の動きが悪い。在庫用の補充もなく、当用買いが中心。当面はこのままではないか。スクラップ価格が少し上がってきたため、価格は何とか維持していきたい。
- ② 10月比微減となり、今年の秋はまったく需要を感じるができなかった。先々も良いニュースはなく、「不況・氷河期」といった言葉すら耳にする状況。年明けに期待を込め、12月を何とか乗り切りたい。

軽量開金鋼

- ① 11月中旬より店売りが低調になってから、そのままの状況が続いてしまっている。
- ② 受注減少の傾向。例年だと繁忙期だが、オリンピック需要の影響か。

鋼管

- ① 需要増が見込まれた時期だが、3カ月連続で前年比マイナスとなり、市況もさらに弱含んでいる。

構造用鋼

- ① 需要環境は徐々に悪化している様相。市中の荷動きは振るわない。自動車、建機、工作機械といった主要な向け先の需要が芳しくない。当面は好転する要素が見当たらず、厳しい状況が続くそう。市中在庫の多め感は解消しつつあり、販売見合いでのメーカー申し込みとなっている。価格は、一部で安値が聞かれる程度で、全体的には横這いで推移。
- ② 市況価格面では何とか維持している。量的に建築、工作機械を始め、堅調であった自動車も車種によっては減速感が見え始めている。

磨棒鋼

- ① 大口の紐付きは、一部物件で健闘していた自動車向けについても、ここにきて調整局面となってきた。台風被害により調整となっていた建機向けも、今のところは回復の兆しが見えてこない。店売りは低位ながら小口の物件が必要最低限で動いている状況。年末から年度末にかけては例年需要が高まる時期なのだが、今年度についてはもう一段階の調整に入ってしまうのではないかとと思われる。

その他

<鉄スクラップ>

- ① 3月ごろからジワジワ下がっていた相場が上がってきた。しかし、12月は減産するメーカーも多く、本格的に相場が底上げしていくかどうかは様子見。

<金属表面処理加工>

- ① 11月は紐付き、物件物とも計画通り。スポットも前月比25%増となり、高付加価値案件も客先の受け取りが順調であったため売上増。12月も紐付き大手ユーザーが順調なことと、大型物件も継続しており高操業で推移しそうである。